

5号

2009年10月

杉並リハビリテーション病院



SUGINAMI Rehabilitation Hospital

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 2、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 3、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 4、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 5、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

リハビリテーション科
すぎもと あつお
杉本 鷹夫 医師



<リハビリテーションについて>

現在「リハビリテーション」という言葉は誰もが知る言葉となり、ごく一般的に使われるようになってきました。しかし、この言葉の意味するところは多義にわたり、理解しにくく、患者様またはその家族の方に、間違った認識を与えることもあります。我々、医療従事者の中にも「リハビリテーションとは?」と問われて正確にこたえることのできる方は少ないのではないでしょうか。

リハビリテーションとは、『障害を有する人に対して、最大限可能な身体的、精神的、職業的、経済的、社会的な能力を回復させること、かつ人間としての尊厳を保つとともに自立生活を営む能力を獲得すること』(1941年、全米リハビリテーション委員会)と定義されています。

障害とは疾患の結果生じた「生活上の困難・不利益・不自由」を示します。それらを少しでも軽減し、心身ともに「再び人間らしく生きること、すなわち「全人間的復権」がリハビリテーションの最終目標です。

昨今では、介護予防の効果が思わしくなかったこともあり、介護保険分野、そして新介護予防分野においても「リハビリテーション前置」と本来のリハビリテーション医療(以下リハビリ医療)が要求されるようになりました。ちなみに、日本リハビリテーション医学会ではリハビリテーション科医が行うリハビリ医療を、「専門的リハビリテーション」(以下「専門的リハ」)と表現しています。

現在、専門的リハが必要とされる患者様は多数おられます。しかし、何らかの要因により、リハビリ医療サービスの提供量や質が足りないことで、その患者様が本来受けるべき治療を受けることができず、症状・障害が遷延し社会復帰が難しくなること、QOLの低下をきたすようなことは由々しき問題と考えます。

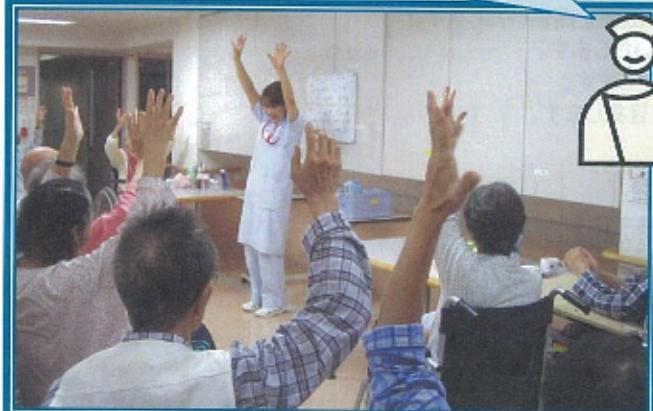
これらの問題に対応すべく、当院は全力で地域リハビリテーションに取り組んできています(現在は入院加療が中心です)、さらなる努力をしていこうと思っています。



嚥下体操について

食事前に患者様に集まつていただき取り組んでいます。最初は、はにかみながら行つていましたが、最近は患者様もスタッフも慣れて、定例行事となつています。実際に患者様だけでなく、スタッフも一緒にやってみて肩が楽になったと好評です。ご家族様もこれはいい運動だと面会にいらした際には一緒に行われている風景もみられます。

今後も工夫しながら継続していきたいと思います。



看護師 ものだ のりみ
園田 祝美

プログラム内容

- ①始まり(声かけにて集合・集中を促す)
- ②見当識確認(日付や曜日などの確認を行う)
- ③嚥下体操 スタート

【肩～頸部】

- ☆1. 肩回し(前方向と後方向×5回)
- ☆2. 前頸部の伸張(頸部の前屈と後屈×3回ゆっくりと)
- ☆3. 頸部の側屈(左右各3回ゆっくりと)
- ☆4. 頸部の回旋(左右各3回ゆっくりと)

* 各目的:胸郭を広げる、頸部周囲筋の伸張・咽頭部への刺激を促す

【口腔～舌の体操】

- ☆5. 開閉口(ア・ンとウ・イ各5回)
- ☆6. 挺舌・舌の挙上・左右運動(各1回ゆっくりしっかりと)
- ☆7. 舌でも口唇なめ(左右1回ずつゆっくりしっかりと)

④早口言葉や歌など

- ☆8. 季節や時期に合わせた内容

* 目的:口腔と舌へ刺激及び覚醒向、口唇の運動、食塊の輸送機能改善、有効な嚥下機能生起の促進、唾液生産促進

⑤終わり(終了を伝え、食事に切り替える)

介護トピックス～片麻痺患者様の移乗介助編～

当院は回復期のリハビリテーション病院で、入院の60%程度は脳血管疾患患者様でその多くは片麻痺の方です。在宅復帰する患者様の場合、家を想定した介護方法をご家族へ指導することが多くあります。そこで今回は脳梗塞など半身麻痺患者(片麻痺)のベッドから車椅子への移乗介助方法をご紹介いたします。

1 麻痺のない手足側に車椅子を斜めに置き、ブレーキをかける。

患者様が‘お辞儀’をするように体を軽く前に傾ける。

2 ポイント!! 介助者が患者様の前に立ち‘お辞儀’の妨げになりやすいので、すこし体をのけぞる形になると良いです。

3 ポイント!! 立ち上がり後‘立位姿勢’をしっかりとつから回転すると転倒しにくくなります。

4 脊部が車椅子に向くまでしっかりと回転し、患者様に‘お辞儀’してもらいゆっくり腰を落します。

上記の行い方以外にも、福祉用具を用いて移乗することもできます。スライディングボード(座って横移動するための板)、ターンテーブル(移乗介助回転台)、リフト(布で身体を包み機械で持ち上げる)ものなど色々あります。

わからない時はケアマネージャーや病院等の理学療法士・作業療法士にご相談にいただければと思います。

★特集★ / バレーボール大会V2! in 荒川区

平成20年夏から現在のバレーボール部メンバーでの活動がスタートとなり、監督である事務長から健保連主催の大会があるとの情報により、チームの腕試し、度胸試しのつもりで参加し優勝を得た昨年度大会でした。

連覇を目指して参戦した今年は、他病院から追われる立場となり、危機迫る試合が多く前回よりもかなり苦戦を強いられました。そんな時支えになったのが、監督やコーチの声かけや励ましであり、応援にかけつけて下さった院長をはじめ多くの職員の方々の声援でした。

山あり谷ありの中、目標としていた優勝を果たすことができ、喜びと感動でさらにチームとして成長することができたように思います。

周りで支えて下さる方々への感謝と期待を胸に来年も連覇を目指し頑張りたいと思います。



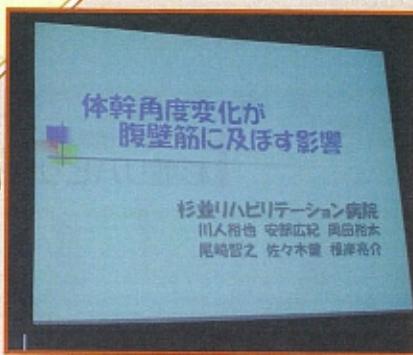
平成21年10月4日(日)に東京国際フォーラムにて開催されたCMS(セントラル・メディカル・システム)学会にて、「体幹傾斜角度が腹壁筋に及ぼす影響」というテーマで研究発表を致しました。リハビリーション科の理学療法士・作業療法士6人で、ベッドギャッジアップの角度による身体の変化についてデータ収集、分析を行いました。話し合っていく中で、意見がまとらない時もありましたが、院内の先生をはじめ、他スタッフの協力のもと、広い会場にて自分たちの研究を報告することができました。

今後はこの研究を臨床現場で活かしつつ、知識・技術の更なる向上に精進したいと思います。

発表者代表 川人 裕也



選手代表 末廣 恵子



第30回 CMS 学会



さつまいもと塩昆布の 炊き込みごはん



秋の実りがおいしい季節ですが、その一つであるさつまいもは、栄養豊富で優れた抗酸化成分を含む食品。カラダの中から美しくなる、女性に嬉しい成分もたっぷりです。芋類は、米や麦などの穀類と同様に糖質を多く含むので主食としている民族がありますが、さつまいもは、ビタミンやミネラルも含まれているので、穀類+野菜から得られる栄養素を合わせもち、その栄養バランスがよいことから、準完全食品とも呼ばれています。

管理栄養士 大山 徳郎



【材料(4人分)】

もち米	1カップ	さつまいも	小1本(250g)
米	1カップ	酒	大さじ1
薄口しょうゆ	小さじ1	漬け物	適宜
水	360cc	白ごま	適宜
塩昆布(細切りタイプ)	30g		

【作り方】

- ① もち米と米はといでざるに上げる。
- ② さつまいもはよく洗い、皮つきのまま2cm角に切って水にさらしてから水気をよくする。
- ③ 炊飯器に①の米と水、薄口しょうゆ、酒を入れ、さつまいもをのせて炊く。
- ④ 炊き上がったら、軽く刻んだ塩昆布を加えてさっくりと混ぜる。
- ⑤ 器に盛り、ごまをちらし、漬け物を添える。



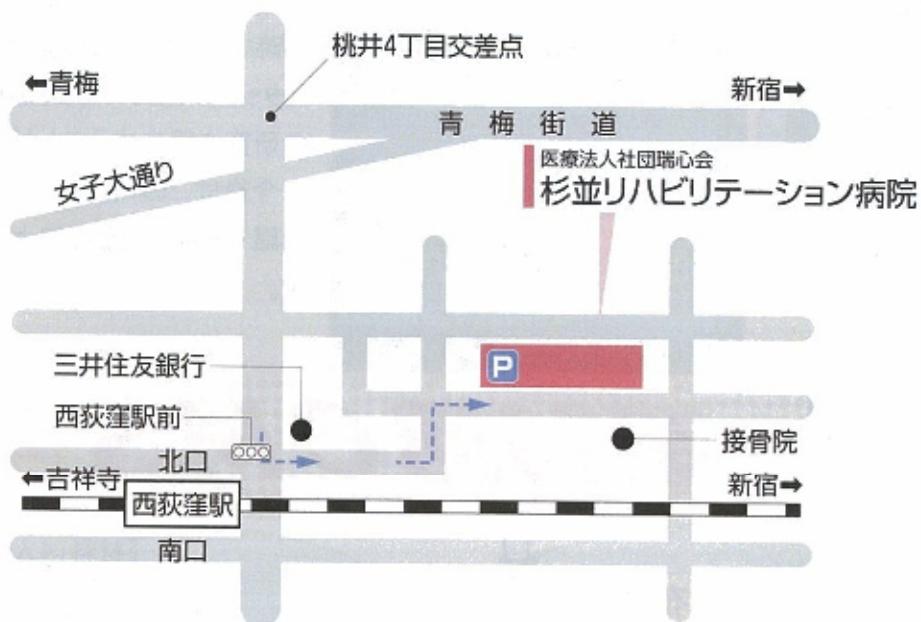
～当院の現況～

	平成21年7月	平成21年8月	平成21年9月
稼働率	99.2%	99.2%	98.4%
入院延べ患者数	3143人	3140人	3015人
在宅復帰率	75.0%	66.7%	60.6%
重症患者割合	47.2%	37.8%	31.3%
重症患者回復病棟改善割合	71.4%	62.5%	76.9%

*重症患者…日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合

*重症患者回復病棟改善…重症患者のうち3点以上の者が改善している割合

交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 **徒歩2分**
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km
西荻窪駅前信号を左(一方通行)

病院概要

開院／	昭和43年10月
理事長／	中村 康彦
院長／	門脇 親房
病床数／	101床 (4床室・個室)
診療科目／	内科・リハビリテーション科
診療時間／	毎週一月・火・水・木・金 9:00~12:30
発行責任者／	門脇 親房
発行／	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

医療法人社団 瑞心会
杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5

TEL.03-3396-3181(代) FAX.03-3396-3186(代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>